

2025年12月7日午前10時30分
待降節(アドヴェント)第2主日 主日礼拝
司会 植松みよ
奏楽 川名ひさ子

讃美歌・詩編交説・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままはどうぞ。

アドヴェントクリンツ点灯 242(2)

前奏

招きのことば イザヤ 60:1-3

讃美歌 240(1-4)「主イエスは近い」

詩編交説 19:8-11(P.25/21)

一 同
一 同

祈り

司会者

『関東教区お祈りカレンダー』

シャロンのば教会 草加教会 東京聖書学校吉川教会
(主の祈り)

讃美歌 248「エッサイの根より」

一 同

聖書 旧約 エレミヤ 36:1-8(P.1245)
新約 IIテモテ 4:1-5(P.394)

メッセージ『真実を語り続ける』 川上 盾 牧師
祈り

讃美歌 469「よき力にわれ囲まれ」

一 同

献金
(献金感謝の祈り)

信仰告白(家族礼拝のための信仰告白)

一 同

頌栄 240(5)

派遣・祝祷
後奏

川上 盾 牧師

報告・紹介

＜招きのことば＞ イザヤ書 60:1-3
起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り、主の栄光はあなたの上に輝く。見よ、闇は地を覆い、暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出で、主の栄光があなたの上に現れる。国々はあなたを照らす光に向かい、王たちは射し出でるその輝きに向かって歩む。

『12月礼拝当番』 畠中祥世 伊藤普史
五十嵐敏子 手塚福治
木暮富美子 岩渕デボラ

『今週の集会・行事』

- ◎ 本日 9:00 CS朝礼拝
- ◎ 本日礼拝後 会堂イス配置換え 聖歌隊練習
うどん食堂 12月定例役員会
- ◎ 10日(水) 前橋こども園教会訪問
- ◎ 11日(木) 10:30 婦人会クリスマス
- ◎ 12日(金) 19:30 洗礼準備会(ZOOM)
- ◎ 13日(土) 9:30 会堂清掃E組
CSクリスマス準備

『次週の主日』

- ◎ 主日礼拝 10:30 CS合同礼拝(ページェント)
メッセージ『飼い葉桶の赤ちゃん』
- 聖書:新約 ルカ 2:8-14(P.103)
- 讃美歌 242(3点灯), c72, c68, c26
- 交説詩編 72(こどもさんびか P.205 ⑩)
- 司会:楠元 桃 奏楽:徳江由利
◎ CSクリスマス祝会

『予告』

- ◎ 信仰告白会 12/17(水) 19:30
- ◎ クリスマス礼拝&愛餐会 12/21(日) 10:30
- ◎ キャンドルサービス 12/24(水) 19:00

『報告』

◎ アドベント第2週です



2本目のキャンドルに火が灯ります。今年もクリスマス飾り付けがなされ、モミ・ヒバの香りが会堂に満ちています。次週はCS合同礼拝。子どもたちのページェント(聖誕劇)が行われます。本日礼拝後、会堂のイス配置換えをいたしますので、お時間のある方はお手伝い下さい。次週礼拝後は子どもたちのクリスマス祝会です。クリスマス案内チラシを用意しましたのでご利用下さい。また今年もクリスマス献金にご協力をお願いします(12/26まで)。

◎ 12/17 信仰告白会

今年は2名の方(長谷川瞳さん・成田零さん)が受洗に向けて準備中です。お二人の洗礼を決意するに至った思いを聞き、みんなで祈りを合わせる夜です。どうぞご予定下さい。



『先週の集会』

	ジュニア	シニア	幼・大人	計
C S 朝礼拝	3	5	11	19
	礼拝堂	オンライン	献金	
主 日 礼 拝	56	19	31, 280	
クリスマス飾付け	10	パイプオルガンコンサート	54	

『メッセージ』『真実を聞き続ける』川上牧師

イザヤ 51:4-8、マルコ 13:21-24(11月30日)

▼バビロン捕囚の時代に活動した二代目預言者イザヤは、捕囚の苦しみから解放してくれるメシア=救い主の到来を預言した。彼は当初、ハビロニアを倒し捕囚の民を解放したペルシャの王・キュロスこそメシア!と期待した。▼しかしそのキュロスも他の権力者と大差ないことを悟り、晩年にとても不思議なメシア預言を残す。それが53章「苦難の僕のうた」である。そこに描かれるのは力を頼らず、むしろ自らが傷つくことによって人々を癒す姿であった。▼51章でイザヤは「人に嘲られる事を恐れるな。罵られてもおののくな」と語る。彼は自分の語る預言をイスラエルの民がよく思わず、バッシングをもって応じることを予知していたのだろう。それでも厳しい状況ではあっても、真実を聞き続けよ!と語るのである。▼マルコ13章はイエスが終末の出来事について教えられた、いわゆる「小默示録」と呼ばれる箇所である。終末においていろんな出来事が起こる(天変地異、大混乱、迫害や逮捕拘束)。恐ろしい「しるし」が続く中で「にせメシアに気をつけよ」と警告の言葉が語られる。▼私たちの生きる現代も「にせメシア」が跋扈する時代と言えるかも知れない。フェイクニュースがあつとい間で共有され、人々の価値観をミスリードする。その情報が正しいのか間違ってるのか...そんなことはもう「どうでもよい」。そこで語られる言説を聞いて「スッキ」と一瞬の快楽を受ければよしとする時代。地道にまじめに真実を求める人を見ると、「なんかめんどくさいことやってるなあ...」と揶揄する言葉がウケる時代。「だからあなたたちは気をつけていなさい」というイエスの警告は、現代に生きる私たちにも十分妥当する。▼どうすれば「にせメシア」に惑わされず真実を聞き続けることができるのか。私たちにはそれを見分ける道しるべが与えられている。それは言うまでもなくイエス・キリスト、その人である。聖書に記されたイエスの姿・その生き様をモデルにして世界を見つめる時、おのづとそこに警戒すべきフェイクニュースと聞くべきリアルニュースとの間の境界線が引かれることだろう。▼ひとつ間違えないようにしたい。マルコ13章には「人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを見る」という言葉がある。これは「栄光のメシア」である。しかしイエスの実際の生き様はそうではない。「力と栄光を帯びた大天使」ではなく、隣人のために十字架を背負うキリスト(マルコ8:31)である。それはまさに二代目イザヤが晩年にやつとどり着いた「苦難の僕」の姿そのものである。▼きらびやかで楽しげで、多くのモノに溢れたクリスマスがあちこちに現れる季節。人間の飽くなき欲望は真実を見ることを忘れさせようとする。しかしそれはクリスマスのまことの喜びではない。飼い葉おけの貧しさの中に生まれ、弱く小さき者と共に歩み、十字架の死至る道を歩み続けられたイエスの生涯にこそ、真実のよろこびがあるのだ。